ISSN 0917－4729

北方民族博物館だより

No.81

北方民族博物館図録（一部）

おかげをもちまして北海道立北方民族博物館は今年で20周年を迎えることができました。
今後とも当博物館をよろしくお願いいたします。

1　表紙　北方民族博物館図録（一部）
2　20周年記念企画展「北方民族博物館20年のあゆみ」／旭川市博物館第62回企画展・北海道立北方民族博物館共催企画「イヌイトの壁掛け－カナダ極北のあったか手仕事」
3　講座「アリュートのカヤック」／講座「網走周辺のアイヌ語地名」
4　INFORMATION

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

20周年記念企画展

北方民族博物館20年のあゆみ

2011.4.23-6.26

開館20周年を迎えた今年（平成23年）、北方民族博物館では4月23日から約2ヶ月間にわたってこれまでの歩みを振り返る20周年記念企画展を開催しました。

企画展では、平成3（1991）年の開館から現在までの20年間を、草創期、成長期、発展期、挑戦期の4期に分け、博物館の代表的な活動や事業、歴代の館長などを紹介しました。

草創期のコーナーでは、北方民族博物館の展示事業を取り上げ、これまでの特別展の紹介とともに第4回、第9回特別展で展示した資料の一部を再展示しました。成長期のコーナーでは、調査研究事業を取り上げ、カムチャツカ半島やモンゴルでの民族調査に関連して集めた民族資料、先史文化調査で発掘した考古資料などを展示しました。これら以外に講習会などの教育普及事業で作成したとんぼ玉、フェルト細工といった作品や、資料収集事業で集めた民族資料なども合わせ、展示した実物資料は全部で百点以上になりました。

他に展示室中央に、過去20年間の博物館の催しの記録写真約80点を展示する写真コーナーを設け、さまざまな行事の雰囲気を感じていただけるようにしました。また、各コーナーには、案内役として解説員の歴代の制服を着たマネキンを配置しました。

最終的に、企画展の観覧者は3,993人になりました。北方民族博物館の歴史を知る人には懐かしく、知らない人にはそのあゆみを知っていただく機会になったと思います。

（主任学芸員　中田　篤）

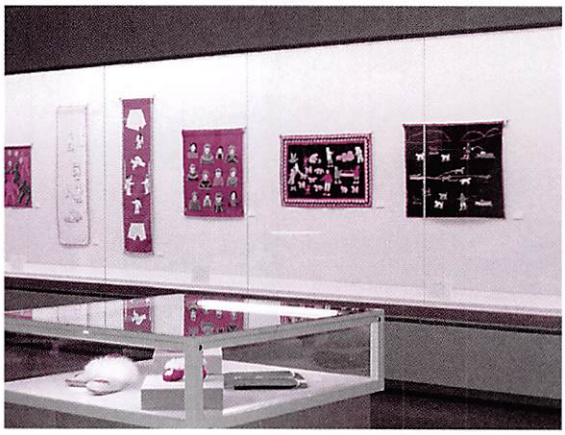
過去の制服を着たマネキンによる展示解説

旭川市博物館第62回企画展

イヌイトの壁掛け－カナダ極北のあったか手仕事

北海道立北方民族博物館共催展示
会場：旭川市博物館

2011.4.29-5.29



旭川市博物館での展示の様子

昨年度の石狩市民図書館での展示に引き続き、今年度は旭川市博物館との共催でイヌイトの壁掛けの展示会を開催しました。

イヌイトの壁掛けは、イヌイトの住むカナダの極北地帯に設置された縫製工場からでたあまり布をつかい、女性たちが小さな壁掛けを作ったのがはじまりで、それは1970年代のことでした。当館で所蔵する壁掛けは、1970年代から壁掛けを収集してきたコレクターの岩崎昌子さんの旧蔵資料ですので、イヌイトの壁掛けの最も初期のものも含まれています。

旭川市博物館の特別展示室は、高い天井を持つため、収蔵している中で一番大きな縦252cmの作品「北極の幼年時代」（ノーマン作）も展示することができました。また、昨年度に岩崎さんから寄贈された、イヌイトの人形50体、ウル（ナイフ）や針入れなどの道具なども展示しました。

関連事業として、『イヌイトのヨーヨーづくり』と『企画展特別解説』を行いました。

なお観覧者数は約2,700名と大勢に壁掛けの魅力を知っていただけました。

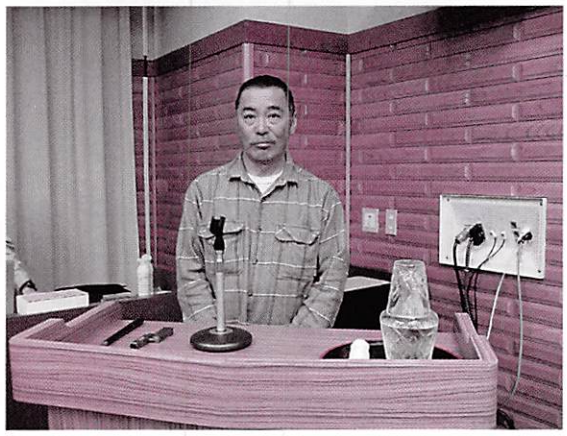
（学芸主幹　笹倉いる美）

講座

アリュートのカヤック

2011.5.7

講師　新谷暁生（しんやあきお）氏（シーカヤックガイド）



講師の新谷暁生さんは、現在ニセコでロッジ、ウッドペッカーズを経営する傍ら、夏はシーカヤックガイドとして、知床半島でのシーカヤックツアー「知床エクスペディション」を長年続けられています。もともとは登山家として活動されていましたが、シーカヤックに乗るようになってから、その原型である北方諸民族の皮舟の構造や、その文化的・歴史的背景にも興味を抱くようになったそうです。そして、2000年にはアリューシャン列島を訪れ、自らシーカヤックを操って島々の周囲の海を巡る航海をおこないました。

本講座では、スライドを交えてシーカヤックでのアリューシャン列島の航海体験をお話しいただき、そのなかで先住民アリュートのカヤックの構造上の特徴や、それらがいかにその海域での航海に適しているかを説明いただきました。例えば船首部分が上下二又に分かれていることによって荒れた海でも舟が安定すること、またパドルのブレード幅が狭くなっていることにより、水の抵抗が少なくなり、軽い力で長時間漕ぐことができることなどです。

新谷さんの訪問時、現地では伝統的なカヤックはすでに使われていませんでしたが、新谷さんの航海を契機に、アリュートの青年がシーカヤックを始めたそうです。伝統的なカヤックでなくてもアリューシャンの海でカヤックでの航海が続けられれば、アリュートの伝統文化の一端が後世に伝えられるのではないかとのことでした。

（主任学芸員　中田　篤）

講座

網走周辺のアイヌ語地名

2011.5.21

講師　伊藤せいち氏
（アイヌ語地名研究者・当館研究協力員）

北海道各地の地名にはアイヌ語に由来するものが少なくありません。今回の講座は伊藤せいち氏から、網走周辺のアイヌ語地名を事例に、意味や由来、アイヌ語地名の特徴などについて興味深いご講演をいただきました。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

最初に、植物の名称に由来する地名の特徴について述べられた。アイヌの生活にとって重要な植物、例えば鱗茎を食用とするクロユリは地名として残されているが、花を観賞するミズバショウやスズラン、秋に赤く染まるサンゴソウ（アッケシソウ）の名称を付したアイヌ語地名は見当たらないという。ギョウジャニンニクを乾燥保存するために刻んだ場所を意味する地名もいくつか存在し、食に関する大切な場所も地名に残ることが多いという。

「魚・を持たぬ」「魚無し」を意味するチェプ・サクcep sakを含む地名の解釈も興味深い。現在は「千種川」の名称の「チェプ・サク・モコトcep sak mokoto」の字義は「魚無し藻琴川」であるが、知人から「魚無しではなく、釣りを楽しんだ」と聞いて、現地を見たが疑問は残ったままであった。知里真志保の解説を改めて見ると「チェプcep」は「サケ」で、サケが遡上しない川の意であった。アイヌにとって重要なことはサケの有無だったわけである。

網走の語源はチパシリ（cipa sir）であるとする説とアパシリ(apa sir)であるとする説に分かれている。チパシリ（cipa sir）はヌサ場の地（あるいは島）を意味するが、網走港の帽子岩の他に、永田方正は「網走湖岸にもあったが崩れて無い」と記した。この説に知里真志保が強い疑義を呈したが、松浦武四郎の残したスケッチ画から1858年当時に網走湖岸にチパシリ岩が存在したことが判明し、永田の記述が正しかったことを裏づけた。

アイヌ語の川の名称であるでナィnayとペッpetは、北海道には両方混在するが、山田秀三の調査から、どちらの使用頻度が高いかを比較すると、ペッの頻度の高いペッ地帯は日高を除き、いわゆる東蝦夷地と重なり千島列島へと繋がる。いっぽう、ナィ地帯は西蝦夷地と重なり、両者の境界が斜里と網走の境界にあたるウラシベツ（浦士別川）筋にあたる。

（学芸員　渡部　裕）

第26回特別展
ウイルタとその隣人たち
～サハリン・アムール・日本　つながりのグラデーション

会期　平成23年7月16日(土)～10月16日(日)
会場　北海道立北方民族博物館特別展示室
サハリン島に暮らしてきたウイルタの歴史と文化を、周辺民族との関わりの視点から紹介します。

観覧料
一般450(300)円　65歳以上300円
高校生・大学生150(120)円
＊(　)内は10名以上の団体料金。常設展示とのセット割引があります。
なお、特別展開催中は、ウイルタのお人形づくり（7/23）や手袋づくり（8/20）、靴づくり（9/17）など、関連事業が盛りだくさんです。ふるってご参加ください。
お待ちしております。

INFORMATION

行事報告

◆5月5日（木・祝）にこどもの日イベントとして革の土器型やクマ型などの革ストラップ作りを行いました。

◆5月28日(土)に博物館クラブ「カラフルまが玉づくり」（講師：日比野美保解説員）を開催しました。

◆6月4日（土）に講座「ロシアからみた北洋漁業－カムチャツカの調査から－」（講師：渡部裕学芸員）を開催しました。

職員の異動等

[北海道立北方民族博物館駐在]
学芸主幹　笹倉いる美
主任学芸員　中田　篤
[退職]
学芸主幹　齋藤玲子

ミュージアムポイントサービス

行事に参加された時に１ポイント。ポイント数に応じて当館オリジナルグッズを進呈します。

義援金

5月5日に開催したこどもの日イベントは「東日本大震災チャリティー革ストラップづくり」の義援金募集を兼ねていました。この義援金に職員の寄付金を加え、34,684円を財団法人日本博物館協会に送金いたしました。被害のあった博物館に送られます。ご協力ありがとうございました。

北方民族博物館だより
No.81

平成23(2011)年６月30日発行
編集・発行　北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
電話 0152-45-3888　fax 0152-45-3889
e-mail：tonakai@hoppohm.org
http：//hoppohm.org
指定管理者
財団法人北方文化振興協会